

十 戒

わたし、あなた、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である。あなたには、私をおいてほかに神々があつてはならない。

あなたは自分のために彫像をつくつてはならない。

あなたは、あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。

安息日を覚えて、これを聖別しなさい。

あなたの父と母を敬いなさい。

殺してはならない。

姦淫してはならない。

盗んではならない。

隣人について偽りの証言をしてはならない。

隣人の家を欲してはならない。

- ◇ 十戒は、出エジプト記第20章2～17節(申命記第5章6～21節)に記されている、神がその民に与えられた律法の基本です。神と人、人と人の間にあるべき基本関係を示します。
- ◇ 十戒によって、私たちは、自分の罪の真相に気づかされます。謙遜に、自分の至らないことを認め、悔い改めたいを思います。
- ◇ しかし、主イエス・キリストに対する信仰によって、私たちは、十戒の教える、まことの神を神として重んじ、隣人と共に生きる生活をする事ができるようになりました。礼拝の初めにこのことを感謝し、主に対する信仰を明確に言い表しましょう。

さんようもん 〈三要文〉 使徒信条 主の祈り 十 戒

使徒信条

われ てん ち つく めし ぜん の う ちち なる かみ しん ず。
我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

われ は その ひと こ われ らの しゅ イエス・キリストを信ず。
我はそのひとり子、我らの主イエス・キリストを信ず。

しゅ せいれい によりてやどり、おとめ う 生まれ、
主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生まれ、

ポンテオ・ピラトのもとに くる し しみ を 受け、じゅうじか
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、

死にて ほうむ られ、よみ にく だり、みつか め し にん の うちより
死にて葬られ、陰府にくんだり、三日目に死人のうちより

よみがえり、てん の ぼ ぜん の う ちち なる かみ みぎ ざ
よみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座した

まえり。かしこより きた りて、い もの し もの
まえり。かしこより来りて、生ける者と死にたる者とを

さば きたまわん。
審きたまわん。

われ せいれい しん せい こう どう きょうかい せい と まじ
我は聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒の交わり、

つみ ゆる からだ とこしえ いのち しん ず。
罪の赦し、身体のよみがえり、永遠の命を信ず。

アーメン

- ◇ 使徒信条は、古来、キリスト教会の信仰を言い表した最も大切な文章のひとつとして重んぜられ、洗礼入会式において、また、礼拝において用いられてきました。
- ◇ 私たちの教会の礼拝では、頌栄「たたえまつれ」に引き続いて、皆でこの信仰を告白します。
- ◇ 礼拝では三要文を告白し、祈り、唱和します。

主の祈り

てん に います わたし たちの ちち よ。
天にいます私たちの父よ。

み な が せい なる もの と さ れ ま す よ う に。
御名が聖なるものとされますように。

みくに 来 ま す よ う に。
御国が来ますように。

みこころ が てん おこな の よう に、ち おこな の よう に。
みこころが天で行われるように、地でも行われますように。

わたし たちの ひ ご と の 糧 を、きょう あた お 与 え ください。
私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください。

わたし たちの おい め を お 赦 し ください。
私たちの負い目をお赦しください。

わたし たち も、わたし たち に おい め が ある 人 たち を 赦 し ます。
私たちも、私たちに負い目がある人たちを赦します。

わたし たち を 試 み に あ わ せ な い で、あく から お 救 い ください。
私たちを試みにあわせないで、悪からお救いください。

くに ちから さかえ と は、とこしえ に あ な た の も の だ か ら で す。
国と力と栄とは、とこしえにあなたのもものだからです。

アーメン

- ◇ 主の祈りは、主イエス・キリストが教えてくださった祈りです。(マタイによる福音書 第6章9～13節、ルカによる福音書11章2～4節)。
- ◇ 私たちの教会の礼拝では、司式者の開式祈禱に続いて皆で唱えます。
日々の生活においても、この主の祈りを祈りあるごとに唱え、
- ◇ 祈りの心に生きてまいりましょう。